

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	関市中央親子教室			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日 ～ 令和6年12月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	119	(回答者数)	111
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日 ～ 令和6年12月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	16
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動空間が十分確保されており、通所児の意思にあわせて広く活動できるようになっています。 ・施設内の清掃を心掛けており、清潔に保たれています。	・個別室も確保し、通所児の状況やニーズに応じた療育に取り組んでいます。 ・清掃業務に従事する職員を配置するだけでなく、療育で使用したおもちゃの片付けをその都度児童指導員が行い整理整頓に取り組んでいます。また、毎日の療育終了後のトイレ等の清掃を外部に委託しています。	・施設内は日々の清掃ができていますが、雑草の繁茂期には施設回りや畑の除草が追い付かないため、その適正な管理については検討していきます。
2	・児童発達支援計画の作成にあたっては、保護者との面談を行い親子のニーズをとらえます。親子にとってどのような療育が最善なのかを第一に、支援に関わる職員間で情報を共有し、検討しながら作成しています。	・通所児が通っている保育園・幼稚園へ園訪問を行い、園での様子を確認するとともに、保護者との面談内容と子どものアセスメントに基づいて、児童発達支援管理責任者と療育担当者、相談支援専門員で支援会議を開催し、個々に合った計画となるよう取り組んでいます。	・引き続き児童発達支援管理責任者、療育担当者、相談支援専門員が話し合いながら、親子にとって適切な支援計画を作成していきます。
3	・活動プログラムを固定化せず、通所児が様々な体験活動ができるよう療育の実践において工夫をしています。 ・親の会と協働しながら、親同士の交流の機会や家族支援を行っています。	・季節に応じた遊び、買い物や鉄道乗車体験など、通所児の興味を引きそうな体験活動を療育のなかに取り入れ、通所児親子の生活経験が広がるよう工夫しています。 ・親の会役員会を年１０回行い、療育への意見や親同士の交流の機会について話し合い、リユース会、おしゃべり会を職員と企画し実施している。	・今後も通所児や保護者のニーズに合った活動内容を取り入れていくとともに、職員間で活動を振り返る機会を持ち、新しいあそびや体験活動、親同士の交流の展開を工夫していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育担当職員の確保	児童指導員の退職に対応した新たな職員の確保が十分に進んでいない。	出生児数は減っているが通所希望者は増えていることから、療育が必要な親子が待機することなく当施設を利用することが出来るよう、療育回数を工夫するとともに、児童指導員の確保による体制整備に取り組んでいます。
2	・施設の老朽化	建物が作られてから４０年が経っている。トイレなどの水回りの改修や全館のじゅうたんや壁紙の張替え、遊具等の充実などを行ってきているが、老朽化により不具合が出ている部分もある。	令和７年度、屋根の修繕を全面的に行います。修繕が必要な箇所について、計画的に進めていきます。
3			